

音楽療法における活動分析トレーニング用

[基本事項]

- 本資料は、音楽の特性を知る活動分析のトレーニング用に作成された資料である。

内 容 ①音楽活動分析表
 ②精神認知機能領域活動分析表

目 的 活動分析の項目は、量として数値や言葉で表示できるものは少ないが、いくつかの活動を比較し相対的に順序立てができるようになること、ある活動に対して負荷を段階づけることができるようになることが分析の重要な目的である。

*個人の学習用の利用に関しては、本資料をコピーして使用することを許可する。

他への転用等は、制作者の許可無しにはご遠慮ください。

なお、活動分析の詳細に関しては「ひとと作業・作業活動第2版」（三輪書店、2005）の「5. 作業分析とは」「6. 一般的分析と試み」「7. 限定的分析と試み」を参照。

感覚・知覚・認知特性

主入力感覚（その活動に伴い主に入力される刺激の程度）

視覚：少---+---多 聴覚：少---+---多 嗅覚：少---+---多
 触圧覚：少---+---多 深部覚：少---+---多 前庭覚：少---+---多

感覚の代償（その活動に必要な感覚が障害されたとき他のどの感覚で代償できるかを示す）

その活動に必要な知覚・認知機能

注意力：量 少---+---多 段階 少---+---多 集中力：量 少---+---多 段階 少---+---多
 持続力：量 少---+---多 段階 少---+---多 理解力：量 少---+---多 段階 少---+---多
 判断力：量 少---+---多 段階 少---+---多 計画性：量 少---+---多 段階 少---+---多

感覚・知覚・認知特性のまとめ

使用楽器の特性

楽器の統制：易---+---難 段階 少---+---多
 楽器の象徴と特性

活動・結果

自由度：量 少---+---多 段階 少---+---多 独創性：量 少---+---多 段階 少---+---多

誘発されやすい感情

自己愛充足 少---+---多

活動の難易度 易---+---難

結果の予測性 低---+---高

活動の社会的意味・価値

交流・コミュニケーションの特性

対人交流の特性： 個人活動，並行活動，二者活動，協同活動（人数 ）
その活動に必要な協力分担の内容

その活動に必要なコミュニケーションと形態

リスク管理上の注意点

身体的リスク

心理的リスク

その活動全体の特性のまとめ

道具・材料	道具の統制：易---+---難 段階 少---+---多 材料可塑性：小---+---大 段階 少---+---多 統制：易---+---難 段階 少---+---多 抵抗：小---+---大 段階 少---+---多
作業・作品	自由度：小---+---大 段階 少---+---多 独創性：低---+---高 段階 少---+---多 難易度：易---+---難 段階 少---+---多 予測性：低---+---高 段階 少---+---多 再生産：低---+---高 段階 少---+---多 結果種類（作品，勝敗，成否，快不快）
対人交流の特性	交流の形態：個人活動，並行活動，二者活動，協同活動（人数） 生じやすい関係：協力，共同，，親和，援助，競争，闘争，その他（） 物理的な距離 コミュニケーションの主形態，必要性

精神認知機能領域で必要な要素

（対象者を限定する場合 疾患・障害：）

鎮 静 ・ 賦 活	
運動，感覚刺激が沈静・賦活にどのように作用するか	
現 実 移 行	
生活リズム回復の機会 少---+---多	依存欲求充足の機会 少---+---多
有能感充足の機会 少---+---多	自己愛充足の機会 少---+---多
適応的発散・感情表出の機会 少---+---多	身体像歪曲修正の機会 少---+---多
集団所属体験・受容される体験 少---+---多	達成感の機会 少---+---多

基本的機能回復

作業が楽しみ、趣味をひろげたり、基礎体力の回復などに有用か

自律・適応援助

日常生活技能の改善・学習の機会	少--+--多	社会生活技能の改善・学習の機会	少--+--多
作業遂行能力の訓練要素	少--+--多	対人関係の学習の機会	少--+--多
コミュニケーション技能の訓練要素	少--+--多	適応的な感情表現（感情統制）の機会	少--+--多
集団参加技能の改善・学習	少--+--多	自己認識、現実検討の機会	少--+--多

コミュニケーション手段

コミュニケーション手段としてどのような利用が可能か

リスク管理上の注意点

身体的リスク

心理的リスク